

2022年度 入試向け

# プレテスト第一回問題

解答用紙	．．．．．	P.1-2
国語問題	．．．．．	P.3-16
算数問題	．．．．．	P.17-21
回答と配点	．．．．．	P.22-23
算数解説	．．．．．	P.24-25
国語解説	．．．．．	P.26-34
成績参考資料	．．．．．	P.35
合格判定基準	．．．．．	P.36
教科別総括	．．．．．	P.37
教科概評	．．．．．	P.38



**桃山学院高等学校**  
St. Andrew's School

202210010



# 桃山学院中学校 プレテスト第一回

二〇二二年度 入試向け

国語 解答用紙

受験番号				名前
P				
	①	①	①	①
	②	②	②	②
	③	③	③	③
	④	④	④	④
	⑤	⑤	⑤	⑤
	⑥	⑥	⑥	⑥
	⑦	⑦	⑦	⑦
	⑧	⑧	⑧	⑧
	⑨	⑨	⑨	⑨

一

問 10	問 9	問 7	問 6	問 5			問 3	問 1
①			(2)	(1)	Z	Y	X	
		問 8					問 4	問 2
②								②
								⑤
③								
④								

二

問 6	問 5					問 4	問 2	問 1	
								II	I
問 7							問 3		

60 50

二

問 12		問 11	問 8
Y	X		
			問 9
			問 10

三

問 2		問 1					
③	①	⑥	⑤	④	③	②	①
④	②						

む う

四

問 4		問 3	問 2	問 1	
④	①	①		②	①
⑤	②	②			

③

記号 記号



202210030

2022年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第1回  
算数 解答用紙

受験番号				名前
P				
	①	①	①	①
	②	②	②	②
	③	③	③	③
	④	④	④	④
	⑤	⑤	⑤	⑤
	⑥	⑥	⑥	⑥
	⑦	⑦	⑦	⑦
	⑧	⑧	⑧	⑧
	⑨	⑨	⑨	⑨

1	(1)	(2)	(3)	(4)
---	-----	-----	-----	-----

2	(1)	円	(2)	%
	(3)	番目	(4)	m
	(5)	度	(6)	cm <sup>2</sup>

3	(1)	回	(2)	りんご 個, みかん 個
---	-----	---	-----	--------------

4	(1)	通り	(2)	通り	(3)	通り
---	-----	----	-----	----	-----	----

5	(1)	cm	(2)	cm
---	-----	----	-----	----

6	(1)	時間	分	(2)	台分
---	-----	----	---	-----	----

合計
※

桃山学院中学校 プレテスト第一回 問題

国語 [五十分・百五十点]

注意事項

- 1 問題用紙は1ページから14ページまであります。
- 2 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 3 受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入してください。
- 4 解答用紙の余白には何も記入しないでください。
- 5 計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。
- 6 「終了」の合図で筆記具を置き、監督の先生の指示に従ってください。

受 験 番 号				名 前
P				

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限がある)  
問いは、句読点とその他の記号も一字に数える)

① 小学生のころの日記は、最後の一文がいつも同じだった。だれとなにをして遊んだ、なんの本を読んだ、たわいもない日常が綴られたあと、唐突に「とてもおもしろかったです」としめくくられる。「とてもおいしくて、とてもおもしろかったです」が、まれな変化形だ。

宿題として日記を提出すると、先生が赤ペンでコメントをくれるのが楽しみだった。でも、あるときこう指摘された。「なにをしたかはよく書いていますが、そのとき感じたことも書けるといいですね」。それ以来、この一文がつけ足されることになった。

② とってつけたような一文は、小さな抵抗のようにも思えるけれど、ただただ素直だったのだ。そもそも日記とは、その日のおもしろかったことを書くものと思っていたような気がする。

あらためて考えると「おもしろい」こそ、そのころの自分が日々感じたいいろいろを表すのに一番適した言葉だったのだと思う。「おもしろい」は、いいかげんなように、じつは万能で、深い言葉だ。

研究でも、一番のほめ言葉は「おもしろい」だ。新しい着眼点、新しい手法、意外な結果、新たな説を導く考察など、それまでの枠組みを大きく変えるような研究こそ「おもしろい」。

③ アートの起源について研究するうえで「おもしろい」がだじじなキーワードだと考えている。鑑賞者の視点からは「美しい」についての議論に集中しがちだが、表現者の視点からはむしろ「おもしろい」が重要なのではないかと。

根拠は、やはりチンパンジーだ。先にも述べたが、チンパンジーが描くとき、芸として教えるのとは違って、ごほうびのリンゴは必要ない。筆やペンを動かして描く行為がなんだか「おもしろい」らしいのだ。

A チンパンジーたちの興味は、描く過程にあつて、描かれた結果としての絵にはあまり興味を示さない。絵筆を動かすことであられる、さまざまな痕跡。画用紙に絵筆をふりおろせば、てんでんが描けるし、筆先をつけたまま水平に動かせば、しゅーっと長い線があらわれる。手を動かしながら、出力(行為)と入力(感覚)の関係を探索的に理解していく。その過程をおもしろがっているように見える。

おとなのチンパンジーには「画風」があつて、絵を見ればだれが描いたかがわかるほどだ。(中略)それぞれの美を求めての画風というより、こう描こうという自分のルールをつくって、それを実行するのが「おもしろい」のだろう。

人間の場合も、子どものころから美を求めて描くわけではない。はじめてペンを握るとき、ふりまわしたペン先がたまたまコッソとあたって痕跡が残るだけで、あ、とうれしそうに歓声を上げたりする。なぐりがきをしている時期は、チンパンジーと同じように、探索する過程をおもしろがって描くのだ。

やがて三歳ごろに「なにか」を表した絵、つまり表象を描くようになると、モチベーション(動機づけ)も変わってくる。自分の描いた線にさまざまな物の形を発見することがおもしろい。頭のなかにあるイメージを紙の上に生み出すことがおもしろい。そして、それを他者に伝えられることがうれしい。つまり個人的な動機づけに社会的な動機づけがくわわるので、他者の反応が気に

なりはじめる。

この時期には、絵を介した言葉のコミュニケーションも頻繁におこる。「これ、アンパンマン」と子どもが説明しながら描いたり、まわりのおとなが「なに描いたの？」と問いかけたりもする。

そのとき、なにげなくつかってしまうのが「上手」という言葉ではないか。上手だね。上手いね。子どもの絵に対してだけではないかもしれない。美術館でも、ダリの絵を前に「上手」という声が聞こえてきて、びっくりしたりする。

自分も「上手」という一元的な評価にさらされてきたからだろう。それ以外に絵をほめる言葉を知らないのだ。そして、<sup>④</sup>「これこそ絵が苦手という人を生み出してしまふ最大の要因なのではないか」と思っている。

「上手」といわれるのは、見た物の形を写し取った写実的な絵のことが多い。子どもの絵でも、やはり物の形をとらえた絵の方がほめられやすいし、子どもらしいのびのびとした絵であるとお「上手」とされる。

そうすると、上手に描けないから絵が苦手、という子が出てきてしまう。おとなになると、上手な絵を描くには、特別な才能や絵心なるものが必要で、自分にはそれが無いから描けないと思ひ込んでいる人も少なくない。

でも、写実的に描くのがむずかしいのはしかたがない。人間ならではの認知的な特性が、そしてじつは表象を描くために必要な認知的な特性が、写実的に描くときには邪魔になるのだと考えている。

小さな子どもが描くのは、丸だけで顔を描くような記号的な絵だ。「顔には、輪郭があって、目が二つあって、口がある」という

頭のなかにある表象スキーマ、つまり「認知」された「知っている物」を描いている。

いっぽうで見た物を描く写実的な絵では、網膜に写る光の配列、つまり物を「なにか」として「認知」する前の「知覚」を描こうとする。

ところが言葉をもった人間は、目に入る視覚情報を「知覚」として、つねに「なにか」として言葉に置き換えて、概念的に「認知」してしまう癖がある。そこで、見えているつもりなのに描けないというジレンマが生まれるわけだ。

小学校の高学年のころ、写生で木を描くのに悩んだ記憶がある。木の枝一本一本が目ではちゃんと見えているのに、描こうとするとうまくいかない。見れば見るほど、たくさんの情報があふれていて、すべてを描き写すのはとうてい不可能に思えた。結局、左右に適当な枝分かれをつくってごまかしてしまった。**B**な表現に逃げたのだ。

学校ではいつも、上手に描こう、きれいに描こうという気持ちでどこかにあった。その結果、より複雑な描き方の記号を探し、こぢんまりとした絵になっていたように思う。

そのころ、家で新聞を読んでいる母の姿を、こっそりスケッチしたことがあった。このとき、なぜかいたずらごろのスイッチが入って、とことんおもしろく、変な絵にしちゃえ、と思った。無造作な髪に、ぎよろつとした目、鼻の穴や顔のしわもありのまま、むしろ誇張するぐらいに描いた。

本人に見せたら、そんな変な顔じゃないといやがるはず、と期待したのに、すっかり肩すかしを食ってしまった。母はわたしがかっこいいことなどお見通して、むしろ上手に描くな



あと感心して、横目で見ていたというのだ。

そういわれてみると、たしかにいつもより生き生きとして、いい絵だった。皮肉にも「上手く」ではなく「おもしろく」描こうと思ったことがよかったのだろう。怪訝（きせげん）に思いながらも、なにか少し枠をこわせたような気がした。

漢字では「面白（おもしろ）い」と書くように、目の前が明るくなることが「おもしろい」の語源だとされる。それまでの枠組みがこわされて光がさしこみ、見えていかなかったものが見えるようになる。

「おもしろい」は、見る人のころのなかでおこる作用であり「—」なのだ。

だから、<sup>⑥</sup>子どもの絵を評価する言葉も「上手」より「おもしろい」がいいと思っっている。

「おもしろい」は絶対的な評価ではなく、あくまで個人の感想だ。人によって、そしてテーマや色合い、構図などの視点によって、多様な「おもしろい」がありうる。そのぶん見る方も主体的に向きあう努力が必要だ。いいかげんな言葉のよううで「上手」よりずっと誠実で、アートの適した評価ではないか。

**C** 「上手」に、というか写實的に描こうとすることを否定するわけではない。

<sup>（注1）</sup> 芸大の美術解剖学研究室にいたころ、毎週水曜は人物デッサンの日だった。解剖学なので、モデルさんの隣（そば）には骨格標本と筋肉模型も並ぶ。同じ研究室の仲間たちは、難関の実技入試を突破してきただけあって、さすがに「上手い」。最初は少し気後れ（きごれ）してしまっただが、鉛筆（えんぴつ）を動かすのは楽しかった。

<sup>（注2）</sup> 朝から数枚のクロッキーとデッサンを終えて、お昼に外に出ると、いつも不思議と目がよくなったような気がした。ふだんより

も緑が鮮（あざ）やかにきらめき、葉っぱの一枚一枚もはつきり見える。世界は光と影（かげ）で構成されているんだなあ、などと感慨（かんがい）にふけったりもした。

写實的に描くことは、<sup>⑦</sup>見る力を磨（みが）くことなのだ。

学部生のころに生物学の実習でスケッチをしたときも、似たことを感じた。記録をとるためだけなら、写真の方が手っ取りばいい。でも時間をかけてスケッチをすることで、はじめて構造が見えてきたりする。

デッサンやスケッチは、概念の枠組みをいったんはずして、世界をありのまま知覚的にとらえる訓練になる。だから多くの画家が、一度写實的な表現を究（きま）めてから、独自の表現を見出（みいだ）しているのだろう。

<sup>（注3）</sup> 齋藤亜矢「ルビンのツボ——芸術する体と心」

\*問題作成の都合上、文章を改変した部分がある。

※（注1） 痕跡（あと）はここでは絵筆を動かすことで残るあと。

（注2） 表象（ひょうしょう）はここでは意味をもつ物事。

（注3） ダリ（ダリ）はスペイン出身の画家。一九〇四〜八九。

（注4） スキーマ（スキーマ）は一般的知識。

（注5） ジレンマ（ジレンマ）は相反する二つの板ばさみになって、どうしようもなくなること。

（注6） 怪訝（きせげん）は納得（なっとく）がいかないこと。

（注7） 芸大（芸大）は芸術大学のこと。

（注8） クロッキー（クロッキー）は短時間に鉛筆などで写生した絵。

問1 — ①「小学生のころの日記は、最後の一文がいつも同じだった」とあるが、このことについて、当時を思い返した筆者はどのように感じているか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ どんなことでも「おもしろい」の一言で言い表すことは好ましくないが、日記とはおもしろかったことを書くものだと当時の自分は誤解していたのだろうと感じている。

い 自分が日々の生活のなかで感じたことを言い表すのに「おもしろい」の他に最適な言葉が思い浮かばず、当時の自分はずいぶん使っていたのだろうと感じている。

う 「おもしろい」は日々の生活のなかで感じたことを率直に言い表した言葉であったが、先生からの指摘に対しては素直に聞き入れられなかったのだろうと感じている。

え 先生からの指摘に対する抵抗のようにも見えるが、当時の自分が日々の生活に感じたことを言い表すのに最適な言葉が「おもしろい」だったのだろうと感じている。

問2 — ②「とってつけたような」、⑤「肩すかしを食ってしまっただった」の本文中での意味として最も適切なものをそれぞれ後から選び、記号で答えなさい。

②「とってつけたような」

あ 心が込められている

い だれかの言葉をまねた

う 不自然でわざとらしい

え あってもなくてもよい

⑤「肩すかしを食ってしまった」

あ うまくかわされて、氣勢をそがれてしまった

い 気を悪くさせて、怒りをかってしまった

う 心をなごませて、笑いをさそってしまった

え 出来ばえを感心され、思いがけずほめられてしまった

問3 — ③「アートの起源について研究するうえでも『おもしろい』がだいたいなキーワードだと考えている」とあるが、筆者がこのように考えるのはなぜか。その理由として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ チンパンジーが描いたものに「おもしろさ」を見出すように、人間がアートを生み出すときには、作品がもつ「おもしろさ」を重視していると考えられるから。

い チンパンジーが筆やペンで描く行為自体をおもしろがっているように、表現者にとっては作品の「美しさ」よりも描くことの「おもしろさ」が重要だと感じるから。

う 作品の「美しさ」とは鑑賞する人間によって変化し、絶対的な価値とはいえないので、表現者が描くことに見出す「おもしろさ」を重視するしかないから。

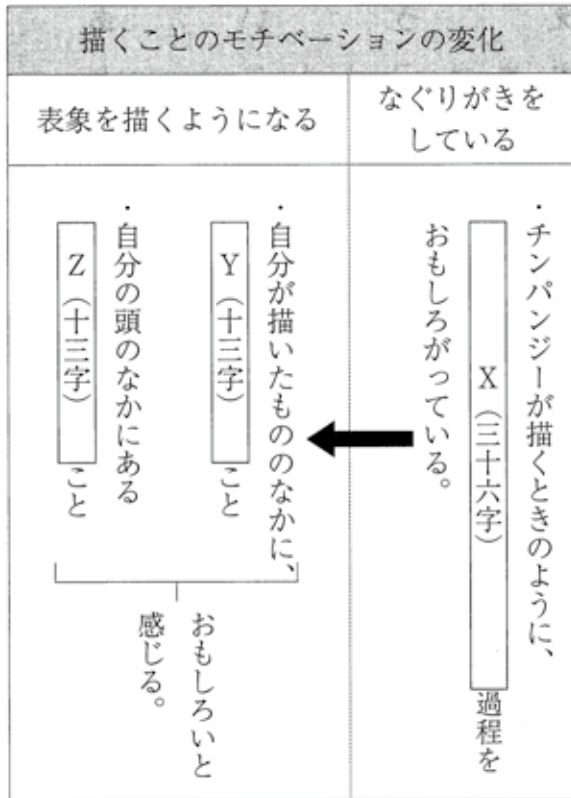
え 作品の「美しさ」とは色使いや構図のたくみさによって決まるものであり、なぐりがきの中からたまたま生まれるようなアート作品にはあてはまらないから。



問4 A・Cに共通してあてはまる言葉として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

- あ つまり い しかも う ただし え むしろ

問5 本文中で説明されている、人間の子どもにおける描くことのモチベーションの変化について次のような図にまとめた。図中のX・Y・Zにあてはまる言葉を、それぞれの( )内の字数指定にしたがって本文中からぬき出し、初めの六字を書きなさい。



問6 — ④「これこそ絵が苦手という人を生み出してしまいう最大の要因なのではないかと思っている」とあるが、これについて次の各問いに答えなさい。

(1) 「これこそ」の「これ」が指す内容を、本文中から九字でぬき出しなさい。

(2) 筆者がそのように思うのはなぜか。その理由として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 絵を描いて周囲に見せた時の、絵を介したコミュニケーション

シヨンが不十分で、絵を描く意欲がなくなるから。

い 美術館などで展示されている絵を見ると、自分には上手な絵を描くことができないと思われるから。

う のびのび育ってきた子どもには、見た物の形を写し取った写実的な絵を描くのがむずかしいと思われるから。

え 物の形を上手く書けなかったり、自分には特別な才能や絵心がないと思ったりする人が出てくるから。

問7 Bにあてはまる言葉として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

- あ 写実的 い 記号的 う 個性的 え 客観的

問8 — ⑥「子どもの絵を評価する言葉も『上手』より『おもしろい』がいいと思っている」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 上手に描こうとした絵よりおもしろく描こうとした絵の方が、絵にごまかしがなく、見る人に生きる勇気や感動を与えるように思われるから。

い おもしろく描こうとした絵は生き生きとしてくると同時に、それまで見えていなかったものが見えてきて、見る人が何かしらの感動を覚えるから。

う 子どもは誰でもいたずらごろこのスイッチを持っており、そのスイッチを入れてやることでおもしろい絵を描かせることが大人の責務だから。

え 絵に対しておもしろいと評価することは、評価する者が絵と主体的に向き合うことであり、上手と評価することよりも誠実であるように考えられるから。

問9 — ⑦「見る力」とあるが、それは具体的にどのような力か。次の文の□にあてはまる言葉を、( )内の字数指定にしたがって本文中からぬき出し、初めの四字を書きなさい。

※ (十六字) 力。

問10 次の①～④の各文について、本文の内容と照らしあわせて、正しければTを、間違っていればFを書きなさい。

- ① 新しい着眼点や手法、意外な結果、新説を導く考察など、それまでの枠組みを大きく変えるような研究を「おもしろい」と感じるが、その「おもしろさ」は絵でも感じられる。
- ② チンパンジーが筆やペンを動かして描くときの様子を見ると、チンパンジーは描かれた結果としての絵に興味を持ち、その出来ばえをおもしろがっているように見える。
- ③ 言葉を持つ人間にそなわる、目に入る視覚情報を知覚すると「なにか」として言葉に置き換えて概念的に認知しようとする特性が、写実的な絵を描く時にはプラスに働く。
- ④ 芸大学の学部生のころの生物学の実習、美術解剖学研究室にいたころのスケッチや人物デッサンは、対象の構造を知るとともに、写実的な表現を究めるためにも有効であった。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（字数制限がある）  
問いは、句読点とその他の記号も一字に数える）

小学生の孝と則秋は、二人が暮らす村にやってきたサーカス一座の団員の娘である雪子と仲良くなった。ある時、孝は、友人の青島くんからたくさんの絵本を譲り受ける。青島くんの家族は、近々、引っ越すことが決まっていた。雪子が村を離れる日もせまっていた。

「大事な本を、こんなにたくさんいいの？」

「本は捨てるものではない。多くの人に読んでもらったほうがいいって、父が言ってるから……」

孝は、うれしかった。でも、それが別れを意味していると考えると、寂しい思いが込み上げてきた。

その絵本の中に、『家なき子』も入っていた。孝は、本箱の中からその『家なき子』の本を探し出すと、みんなのところに持っていた。

孝と則秋が交代で読んで、雪子と美知子は、じっと聞いていた。

美知子は、黄色いダルマの形をしたセルロイドの起き上がり小法師の人形を抱いていた。それは、孝が赤ちゃんコンクールで二位になったときの賞品で、肩のところをぶつけて少しくぼんでいたが、ミズエも孝もずっと大切にしていたものだった。

コンクールでは、審査員の先生が会場に居並ぶ赤ちゃんを見渡すなり、

「あの子が一位ですね」

と孝を指差した。②ひときわ抜きん出て、体格の良さが目立って

いた。ところが、近づいて体に触ってみて、

「惜しい、離乳食に切り替えるのが遅かったですね」

と残念がった。そして、二位になった。

孝が、ミズエのおなかの中にいる時、あまりにも大きなおなかをしていたので、みんなから、

「それは、双子に間違いないでしょう」

と言われた。ミズエも、その気になっていた。

「孝が生まれる時は、双子で大変だからというので、産婆さんが産婦人科の森先生も呼んでいてくれた。でも、森先生が家の玄関に入ろうとした途端に『オギャー』という声があったので、家には入らないで帰られたんだって。孝は、生まれたときは丸々してた」

ミズエは、その話を何度も孝に話して聞かせた。

その人形は、美知子が揺らすたびに、

ポローン、ポローン

と軽やかな音を奏でている。

『家なき子』は、かわいそうな捨て子のレミが、旅芸人のピタリスじいさんに連れられて、芝居をしながら村から町へと旅をする物語だった。優しいピタリスじいさんが、竖琴の弾き方や、字の書き方、読み方も教えてくれた。レミの友達は、りこうな犬のカピ、ゼルビノ、ドルス、猿のジョリクールだった。食べるものもなかったり、寒さに凍えそうになったり、ピタリスじいさんが意地悪な警官に連れていかれて、独りぼっちになったりしたときも、この友達と励まし合って生きた。

そして、最後にレミは、赤ん坊のころ、財産を横取りしようとした親戚の悪い人にさらわれて捨てられていたことがわかり、本



当のお母さんとも再会することができたのだった。

孝と則秋が交代で読むのを黙って聞いていた雪子は、胸が熱くなってきた。本を読んでもらうのも初めてだったが、物語を聞いて胸が熱くなったのも初めてのことだった。雪子は、レミと自分のことが重なってきて、何か心に込み上げてくるものがあった。

「わたし、どうしたのかしら。何だか悲しいような、うれしいような……、自分でもよくわからない」

「僕が初めてこの本を読んだときも、そんな気持ちだったよ。」

レミが自分みたいな気がしたわけ。父さんに話したら、それが本を読むときの大事なことだって教えてくれたんだよ」

父の一馬は、布団の中で、四人の会話を黙って聞いていたが、上半身を起こして言った。

「そっだよ。自分の心って自分ではなかなかよくわからないけど、本を読むとA、自分の心が映し出されるんだよ。それに、見たこともない遠い国のことや、大昔のことや、遙かな未来のことまでも知ることができるんだよ」

「何だか、わかるような気がする」

雪子はうなずいた。

そんな話をしているところへ、

「おい、みんなはこっちの家におつとかなー？」

と、声がした。梅三じいさんが帰ってきたのだ。

「これはこれは、ご主人。きょうは調子ん良かごたつてすね」

「はい、おかげさまで。いつも子どもたちがお世話になって、すみません」

「いいえ、お互いさまですたい」

「じいちゃん、早かったね」

「うん、きょうは商売大繁盛じゃったけんね……。そいじゃ、綿菓子ば作ってやるかいね」

みんなは、則秋の家に移動した。梅三じいさんは、リヤカーで作った屋台から綿菓子の機械をはずすと、縁側で綿菓子を作り始めた。四人のために最後のザラメを残してきたのだった。四人は、順番に綿菓子をもらうと、おいしそうに食べた。

④先ほどの感動さめやらない雪子が、綿菓子を食べながら、

「わたし、やっぱり学校に行きたいなあ……」

と、寂しそうにつぶやいた。

「本もたくさん読みたいし、いっぱい友達もつくって遊んだり、一緒に勉強したい……。でも、だめかもしれない……」

というのは、父と母のことを考えたからだった。

梅三じいさんは、

「そうか、学校に行きたいか。えらいなあ……。雪子ちゃんは、もう学校に行く年なんだね」

と言いながら、ニコニコして雪子の顔を見つめた。

「わたし、この町に来て本当に楽しかった。一人っ子で寂しいこともあったけど、孝にいちちゃんや、則秋にいちちゃんと仲良くなくて、うれしい」

梅三じいさんは、

「そうか、よかったね。よかったね」

と、ただ何度もうなずいた。

「わたし、サーカスの旅先で生まれたんだって……。いつも、あつちこつちを回っているから、わたしには、故郷がないの……」

孝にいちちゃんたちには、桜の花のトンネルや、魚釣りや、スッポン捕りのできる故郷があって、うらやましい……」

「<sup>⑤</sup>そんなことないよ。雪子ちゃんには、優しい父さんも、母さんもいるし、象の花子もいるじゃないの」  
と、孝が言った。

梅三じいさんは、相変わらず **B**、

「そうたい。雪子ちゃんにやあ、日本中全部が故郷じゃなかね。雪子ちゃんのごて、雪んように真つ白て、きれか心んあれば、どこにてん友達はてくつし、お父さん、お母さん、それにサーカスのいろんな人からてん、いろんなことば勉強できると思うばつてんねえ……」

「そうかなあ……」

「雪子ちゃんは、河原かわらに行つたことあるかなあ」

「うん、ある」

「そこに、きれか小石のいっばいあるじゃろ。まん丸かどやら、お握りにぎのごたつとやら……」

「動物の形をしたのやら……、いろいろ拾つたことある」

「そうじゃろう。そん一つひとつばじーつと見てごらん。どがんでん、そがんでん形になつたとかあつて。そら、川の上かみほうから流されてきて、何度でん、何回でん、石同士いしどうしのぶつかり合あうて、角んとれて、丸みば帯びてきたとよ」

「ふーん」

「一個ん石にも <sup>⑥</sup>いろいろな物語の込められちよつとばい。そいけん、じーつと石ば見ちよれば、いろいろなことば石の話しかけてくるとよ」

「うん、わかる」

「虫けらてん、動物でん、草や木でん、道に転がつちよる石ころてん、空の星やら、月でん、太陽でん、雨や風でん、いつてん

雪子ちゃんの心に何かば語りかけちよるとよ。心の中ん **C** ば澄すませば、聞こえてくるかもしれんよ」

梅三じいさんは、小学校も卒業しないうちに働きに出されて、一所懸命いんけんめいに働いたこと、機械の修理をしながら、その仕組みを自分で勉強しているうちに発明好きになつたこと、いろんなことが知りたくて、ほかの人に漢字の読み方を教えてもらいながら本を読んだこと、自然を観察するのが好きになつたこと……そんなことを、懐なつかかしそうに、独り言のように話した。

それを聞いて、孝は、梅三じいさんが物知りである理由がわかつた思ひだつた。縁側のわきでは、ハエ取り器が相変わらずハエを載のせて音もなく静かに回っている。

雪子の顔は、いつしかしっかりとした表情になつていた。

「おじいちゃん、みんな、ありがとう……」

と、<sup>⑦</sup>雪子の顔に笑顔えがほが浮かんだ。

(植木雅俊「サーカスの少女」)

※(注1) 美知子⇨孝の妹。

(注2) セルロイド⇨人工的に合成された、歴史上最初のプラスチック素材。

(注3) 赤ちゃんコンクール⇨戦後の日本各地で開かれた健康な乳幼児を選ぶコンテスト。赤ちゃんの健すくやかな発育と育児の正しい知識を広めることを目的として自治体やミルクメーカーによって開かれた。

(注4) 梅三じいさん⇨則秋の祖父。



問1 — ①「家なき子」とはどのような物語か。それについて説明した次の文の I・II にあてはまる言葉を、それぞれの( )内の字数指定にしたがって、本文中からぬき出しなさい。

※ I (十二字) に連れられて、芝居をしながら村から町へと移動しているレミが、最後に II (七字) に再会するという物語。

問2 — ②「ひときわ」とあるが、——線部の言葉が本文中の「ひときわ」と同じ意味用法で用いられているものを後から選び、記号で答えなさい。

- あ 親友のたのみを、ひときわ引き受けた。
- い 今夜は、寒さがひときわ身にしみる。
- う 野球の試合で、ひときわ勝利した。
- え 泣きさけぶ弟の頭を、ひときわなでた。

問3 [A] にあてはまる言葉として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

- あ 店先ですてきな商品を見つけたときのように
- い お気に入り映画の一場面のように
- う 鏡の前に立ったときのように
- え 昔から知っている友達のように

問4 — ③「ご主人」とあるが、具体的には誰のことか。最も適切な言葉を、本文中からそのままぬき出しなさい。

問5 — ④「先ほどからの感動さめやらない雪子」とあるが、雪子の「感動」とは具体的にどのようなことか。それについて説明した次の文の [ ] にあてはまる内容を、五十字以上六十文字以内で書きなさい。

※孝と則秋の二人が読んでくれる、[ ] こと。

問6 — ⑤「そんなことないよ。雪子ちゃんには、優しい父さんも、母さんもいるし、象の花子もいるじゃないの」とあるが、このように言ったときの孝の気持ちとして最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

- あ 雪子から故郷があつてうらやましいと言われたものの、変化のない日常生活にあきて、かえって旅を続ける雪子をうらやましいと感じている。
- い 自分の口うるさい両親とは異なり、本当に優しい雪子の両親に親しみを覚え、自分も雪子の両親の子だったらよかったのにと残念がっている。

う サークাসの子であるために、学校へも行けずに旅を続ける雪子をかawaiiそうに思うと同時に、自然あふれる故郷を持つ自分を幸福に思っている。

え サークাসの子として生まれたことで、故郷もなく学校へも行けないかもしれないと考えている雪子を、何とかして元気づけようとしている。

問7 [B]にあてはまる最も適切な言葉を、本文中から六字でぬき出しなさい。

問8 ⑥「いろいろな物語」とあるが、梅三じいさんが話す、河原の石に込められた物語とは具体的にどのようなことか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

- あ 河原の石の一つ一つが、その形になるまでに経てきたこと。
- い 河原に転がる小石の中に、特別なものが必ず一つあること。
- う 数ある石の中で、河原に流れ着けるのは限られていること。
- え 河原に転がる石の中から、偶然一つを選んで手にとること。

問9 [C]にあてはまる最も適切な言葉を、漢字一字で書きなさい。なお、その言葉は、人間の身体に関係のある言葉である。

問10 ⑦「雪子の顔に笑顔が浮かんだ」とあるが、この時の「雪子」の気持ちの説明として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 石ころや星、月、太陽などが語りかけるといふ梅三じいさんの話にはどうしても納得できないうが、自分を一所懸命になぐさめてくれる梅三じいさんや孝たちの思いやりには感謝している。

い 学校に通えない自分を、自分の過去を詳しく話しながらなぐさめようとしている梅三じいさんに感謝と尊敬の気持ちをもちながらも、自分には同じことはとうてい無理だろうと思っている。

う 小学生の時から働きに出されながらも自分で学んで知識を少しずつ増やしてきた梅三じいさんの話に心を動かされ、自分の境遇に負けずになぐさめてみようと前向きな気持ちになっっている。

え 石ころ、星、月、太陽、雨や風など、身のまわりの物が語りかけてくるといふ梅三じいさんの話に興味を持ち、本当にそうなのだろうかと自分でも実際に試してみようと思っっている。

問11 登場人物の変化に着目して本文を大きく二つに分けると、後半の部分はどこから始まるか。本文中から後半部分の初めの五字をぬき出しなさい。

問12

あるクラスで、国語の時間に本文の内容について話し合った。次に示すのは、本文に登場する「梅三じいさん」について話し合っている中田さんたちの様子である。本文の内容をふまえて、 X  Y にあてはまる言葉を、後からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

<p>岩井 なるほど。きっとそうだね。</p>	<p>中田 ぼくは、梅三じいさんが言いたいのは、<input type="checkbox"/> Y ということだと思うよ。</p>	<p>山下 梅三じいさんは、結局何を言いたいのかな。「小学校も卒業しないうちに働きに出されて」とあるけれど、これが関係しているようにも思えるね。</p>	<p>山下 梅三じいさんは、「物知り」とあるけれど、この他に、どのようなことが好きなのかな。それについては、梅三じいさんの話した内容からわかるよ。<input type="checkbox"/> X とあるから、自分の身のまわりの様々なものごとにも興味をもっていたんじゃないかな。</p>	<p>岩井 そうか。だから、学校に行けないかもしれない心配する雪子に対して、河原の小石、空の星、月、太陽、雨や風などを例に挙げて話しているのかもしれないね。</p>	<p>中田 梅三じいさんは、「発明好き」で「物知り」とあるけれど、この他に、どのようなことが好きなのかな。それについては、梅三じいさんの話した内容からわかるよ。<input type="checkbox"/> X とあるから、自分の身のまわりの様々なものごとにも興味をもっていたんじゃないかな。</p>
-----------------------------	--	--	--	--	---

X

あ 本を読むことが苦痛だった  
い 自然の観察が好きになった  
う 人にものを教わることが苦手だった  
え 機械をいじることが趣味になった

Y

あ 学ぼうという気持ちさえあれば、いつでも、どこでも学ぶことができる  
い 人間にとって一番大事なものは、自分を大切に思ってくれる家族や友人である  
う 自分の生まれた故郷は、どこにいても、年を取っても忘れられないものである  
え 身のまわりのささいな物にも、美しさを感じることできる人間は幸福である

【三】 次の各問いに答えなさい。

問1 次の——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- ① 布が水をキユウシユウする。
- ② 難しい問題にコウサンする。
- ③ 注文する料理にマヨウ。
- ④ 減税を求め。
- ⑤ 支障があつて行けない。
- ⑥ セーターが縮む。

問2 次の各語が類義語の組み合わせになるように、に共通してあてはまる漢字一字を後のカタカナから選び、漢字に直して答えなさい。

- ① 使 利
- ② 案 意
- ③ 品 素
- ④ 段 法

ナイ	シユ	コウ	ガイ
ヨウ	シツ	カイ	エキ

【四】 次の各問いに答えなさい。

問1 にあてはまる生き物の名前をひらがなで書き、ことわざを完成させなさい。またその意味を後から選び、記号で答えなさい。

- ① の甲こうより年の功
- ② とらぬの皮算用

あ まだ手に入らない物をもとに、計画を立てること。  
 い つまらない物でも、ないよりはましだ。  
 う 年長者の経験は、尊重すべきである。  
 え 自分から原因を作つて、悪い結果を招くこと。

問2 次の①～④の四字熟語のにあてはまる数字を足していくと、合計はいくつになるか。その数字を後から選び、記号で答えなさい。

- ① 七転倒たう
- ② 拳けん両得
- ③ 三寒温
- ④ 里霧りむ中

あ 15  
 え 16  
 う 17  
 い 18

問3 次の文中の□が直接かかる言葉をそれぞれ文中のあ～きから選び、記号で答えなさい。

- ① あ向こうに □ 見える  
い白くて  
う大きな  
え洋館は  
おぼくの か祖父母の き家だ。

- ② □ おそらく  
あこの い小さな  
う木にも  
えたくさんの  
おきれいな か花が き咲くだろう。

問4 次の①～⑤の各文について、日本語として正しければTを、間違っていればFを書きなさい。

- ① 私の妹は、自分一人で洋服を着れる年齢になった。  
② あの選手の持ち味は、試合終了まであきらめずに戦います。  
③ 住めば都というが、この田舎にもだいぶ慣れてきた。  
④ 母は、二十分ほどで買い物から帰ってくるでしょう。  
⑤ 暦の上では冬とはいえ、小春日和の日が続いている。

以上で問題は終わります。



2022年度 入試向け  
桃山学院中学校 プレテスト第1回 問題

# 算 数

【50分・150点】

## 注 意 事 項

- 1 問題は1ページから5ページまであります。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 3 円周率は、3.14とします。
- 4 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 5 受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入しなさい。
- 6 計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。
- 7 「終了」の合図で鉛筆を置き、監督の先生の指示に従いなさい。

受 験 番 号				名 前	
P					

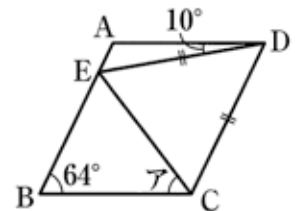
1 次の  にあてはまる数を答えなさい。

- (1)  $\{(34 + 56 \div 2) \times 7 - 146\} \div 18 - 9 = \text{$
- (2)  $29 \times 125 \times 8 - 87 \times 25 \times 4 - 29 \times 5 \times 100 = \text{$
- (3)  $\left( \text{} - \frac{7}{12} \div 1.75 \right) \times \frac{3}{8} = 0.4$
- (4)  $540 \text{ cm} \times 3 - 3000 \text{ mm} \div 0.25 + 0.02 \text{ km} = \text{ m}$

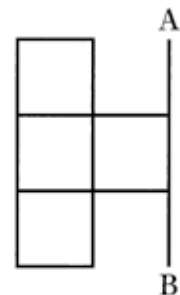
2 次の問いに答えなさい。

- (1) 兄と弟が合わせて 6000 円をもらいました。兄がはじめにもらったお金の  $\frac{1}{3}$  を使ったところ、2 人の残金が等しくなりました。兄がはじめにもらったのは何円ですか。
- (2) 1500 円で仕入れた品物に利益を見こんで定価をつけました。この品物を定価の 3 割引きで売ると 180 円の利益があります。定価をつけるときに見こんだ利益は仕入れ値の何%ですか。
- (3) 次の数の列は、整数を 1 から順にならべたものから、偶数と 5 の倍数を取りのぞいたものです。この数の列で 2021 は左から何番目ですか。  
1, 3, 7, 9, 11, 13, 17, 19, 21, ...
- (4) 出発地点から折り返し地点まで行き、同じ道を出発地点までもどるマラソンコースがあります。このコースを、太郎さんと花子さんが同時に出発したところ、折り返し地点から 120 m はなれた場所ですれちがいました。太郎さんが分速 150 m、花子さんが分速 135 m で走ったとき、出発地点から折り返し地点までの道のりは何 m ですか。

- (5) 右の図で、四角形 ABCD は平行四辺形で、E は辺 AB 上の点です。DE の長さと DC の長さが等しいとき、アの角の大きさは何度ですか。



- (6) 1 辺が 5 cm の正方形を右の図のように組み合わせた図形を直線 AB を軸として 1 回転させ、立体を作りました。この立体の表面積は何  $\text{cm}^2$  ですか。



**3** 箱の中にりんごとみかんが入っています。1回にりんご5個とみかん4個を取り出すことをくり返すと、何回目かで、りんごがちょうどなくなり、みかんが29個残ります。1回にりんご4個とみかん5個を取り出すことをくり返すと、何回目かで、みかんがちょうどなくなり、りんごが11個残ります。次の問いに答えなさい。

(1) りんご4個とみかん5個を取り出した回数は、りんご5個とみかん4個を取り出した回数より何回多いですか。

(2) 箱の中に入っているりんごとみかんの個数は、それぞれいくつですか。

**4** 0 から 9 までの整数が 1 つずつ書かれた 10 枚のカードがあります。

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

このうち 3 枚を選び左から順番にならべて、3 けたの整数を作ります。次の問いに答えなさい。

- (1) 3 けたの整数は何通り作れますか。
- (2) 十の位を四捨五入すると 400 になる数は何通り作れますか。
- (3) 36 の倍数は何通り作れますか。

- 5** 右の図1のような直方体  $ABCD-EFGH$  の容器があります。この容器に、 $2000 \text{ cm}^3$  の水を入れたところ、水の深さは  $10 \text{ cm}$  になりました。この容器に水がもれないようにふたをして、下の図2のように、この容器を辺  $CG$  が床からはなれないようにして、アからウになるように容器をたおしました。とちゅうのイでは、水面の位置が  $PD$  になり、 $BP$  の長さとなら  $PA$  の長さの比が  $1:3$  となりました。また、ウの状態では、水の深さは  $5 \text{ cm}$  になりました。

図1

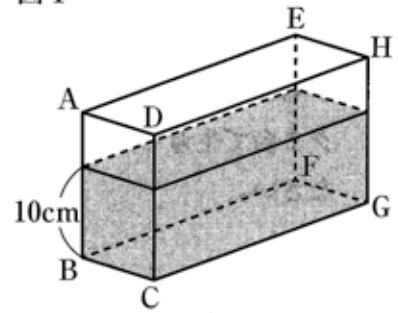
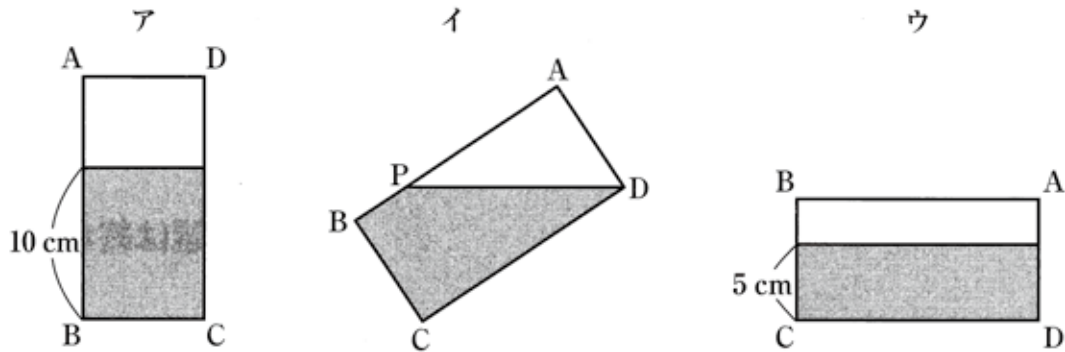


図2



- (1) 辺  $AB$  の長さは何  $\text{cm}$  ですか。
- (2) 辺  $CG$  の長さは何  $\text{cm}$  ですか。



**6** ある工場では、1日の目標個数の製品を生産するのに、機械Aだけでは12時間、機械Bだけでは10時間30分かかります。また、1日の目標個数の製品を一度に運び出すには、トラックがちょうど7台必要です。この工場て毎日、機械AとBを6時間ずつ使い製品を生産し、トラック7台で生産した製品を1日1回運び出すことをくり返しました。このとき、次の問いに答えなさい。

(1) この工場の1日の目標個数の製品を生産するのに、機械AとBの両方を同時に使い始めると、何時間何分かかりますか。

(2) 10日目が終わったときに、工場にはトラック何台分の製品が残っていますか。

**以上で問題は終わりです。**

2022年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第1回

# 解答と配点

## 目次

### 解答

1 国語 (50分・150点) ..... P. 1

2 算数 (50分・150点) ..... P. 1

配点 ..... P. 2

# 解 答

## 国 語

- 一 問1 え 問2 ② う ⑤ あ 問3 い 問4 う  
問5 X 手を動かさな Y さまざまな物 Z イメージを紙  
問6 (1) 「上手」という言葉 (2) え 問7 い  
問8 え 問9 世界をあ  
問10 ① T ② F ③ F ④ T

- 二 問1 I 旅芸人のピタリスじいさん II 本当のお母さん  
問2 い 問3 う 問4 (父の) 一馬  
問5 [例] (孝と則秋の二人が読んでくれる) 『家なき子』の物語を聞いているうちに、  
レミと自分のことが重なって心にこみ上げてくるものがあり、初めて胸が  
熱くなった(こと。) [57字]

- 問6 え 問7 ニコニコして 問8 あ 問9 耳  
問10 う 問11 そんな話を 問12 X い Y あ

- 三 問1 ① 吸収 ② 降参 ③ 迷(う)  
④ げんぜい ⑤ ししょう ⑥ ちぢ(む)  
問2 ① 用 ② 外 ③ 行(「質」も可とする) ④ 手

- 四 問1 ① かめ・う ② たぬき・あ 問2 え  
問3 ① え ② き  
問4 ① F ② F ③ T ④ T ⑤ T

## 算 数

- 1 (1) 7 (2) 5800 (3)  $\frac{7}{5}$  (4) 24.2  
2 (1) 3600円 (2) 60% (3) 809番目 (4) 2280m  
(5) 53度 (6)  $1884\text{cm}^2$   
3 (1) 2回 (2) りんご95個、みかん105個  
4 (1) 648通り (2) 72通り (3) 20通り  
5 (1) 16cm (2) 25cm  
6 (1) 5時間36分 (2) 5台分

# 配 点

## 国 語

一 問1…4点  
問4…2点  
問7…2点  
問10…各2点

問2…各2点  
問5…各4点  
問8…4点

問3…4点  
問6…各4点  
問9…4点

合計 52点

二 問1…各4点  
問4…2点  
問7…4点  
問10…4点

問2…2点  
問5…10点  
問8…4点  
問11…4点

問3…4点  
問6…4点  
問9…4点  
問12…各4点

合計 58点

三 各2点

合計 20点

四 各2点

合計 20点

## 算 数

1 各8点  
2 各8点  
3 各8点  
4 各6点  
5 各9点  
6 各9点

合計 32点

合計 48点

合計 16点

合計 18点

合計 18点

合計 18点

# 2022年度入試向け プレテスト第1回

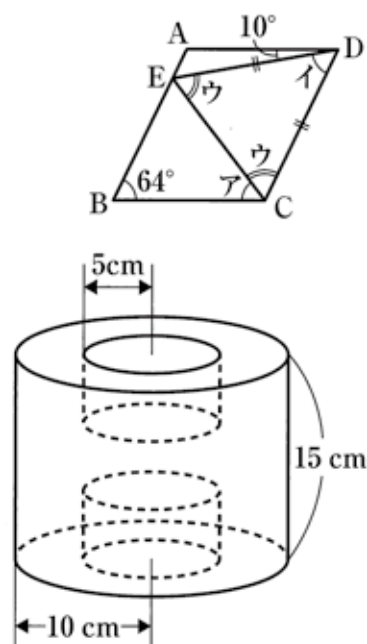
## 解説

**1** 計算問題

- (1)  $\{(34+56 \div 2) \times 7 - 146\} \div 18 - 9 = \{(34+28) \times 7 - 146\} \div 18 - 9 = (62 \times 7 - 146) \div 18 - 9$   
 $= (434 - 146) \div 18 - 9 = 288 \div 18 - 9 = 16 - 9 = 7$
- (2)  $29 \times 125 \times 8 - 87 \times 25 \times 4 - 29 \times 5 \times 100 = 29 \times 10 \times 100 - 29 \times 3 \times 100 - 29 \times 5 \times 100$   
 $= 29 \times (10 - 3 - 5) \times 100 = 29 \times 2 \times 100 = 5800$
- (3)  $(\square - \frac{7}{12} \div 1.75) \times \frac{3}{8} = 0.4, \square - \frac{1}{3} = 0.4 \div \frac{3}{8} = \frac{16}{15}, \square = \frac{16}{15} + \frac{1}{3} = \frac{7}{5}$
- (4)  $540 \text{ cm} \times 3 - 3000 \text{ mm} \div 0.25 + 0.02 \text{ km} = 1620 \text{ cm} - 12000 \text{ mm} + 0.02 \text{ km}$   
 $= 16.2 \text{ m} - 12 \text{ m} + 20 \text{ m} = 24.2 \text{ m}$

**2** 小問集合

- (1) はじめに 2 人がもらった 6000 円は、兄がはじめにもらった金額の、  
 $1 + (1 - \frac{1}{3}) = \frac{5}{3}$  にあたる。  $6000 \div \frac{5}{3} = 3600$  (円)
- (2) 売値の、  $1500 + 180 = 1680$  (円) が定価の 3 割引きにあたる。定価は、  $1680 \div (1 - 0.3) = 2400$  (円) 定価は仕入れ値の、  $2400 \div 1500 = 1.6$  (倍) だから、  $1.6 - 1 = 0.6$  より 60%
- (3) 1, 3, 7, 9/11, 13, 17, 19/21, ... のように 10 個の整数ごとに 1 の位の数が 1, 3, 7, 9 の 4 個の整数がくり返しててくる。  
 $2021 \div 10 = 202$  あまり 1 より、4 個の整数のセットが 202 個とあまりに整数が 1 個あるから、  
 $4 \times 202 + 1 = 809$  (番目)
- (4) 2 人がすれちがうまでに進んだ道のりの差は、  $120 \times 2 = 240$  (m) 2 人がすれちがったのは  
 出発してから、  $240 \div (150 - 135) = 16$  (分後) 出発地点から折り返し地点までの道のりは、  
 $150 \times 16 - 120 = 2280$  (m)
- (5) 右の図で、イは、  $64^\circ - 10^\circ = 54^\circ$  より、  
 ウは、  $(180^\circ - 54^\circ) \div 2 = 63^\circ$   
 アとウの和は、  $(360^\circ - 64^\circ \times 2) \div 2 = 116^\circ$  だから、  
 アは、  $116^\circ - 63^\circ = 53^\circ$
- (6) 1 回転してできた立体は、底面の半径が 10 cm で高さが 15 cm の円柱の上下の面から、底面の半径が 5 cm で高さが 5 cm の円柱をくりぬいた形になる。表面積は、  
 $10 \times 10 \times 3.14 \times 2 + 10 \times 2 \times 3.14 \times 15 + 5 \times 2 \times 3.14 \times 5 \times 2$   
 $= 600 \times 3.14 = 1884$  (cm<sup>2</sup>)





### 3 差集め算の利用

- (1) 1回にりんご5個とみかん4個を取り出すとき、1回にりんご4個とみかん5個を取り出すときの、1回に取り出す個数の合計はどちらも9個で、残った個数が、 $29 - 11 = 18$ (個)ちがうから、取り出した回数のちがいは、 $18 \div 9 = 2$ (回)
- (2) 取り出した回数を1回にりんご5個とみかん4個を取り出した回数にそろえると、1回にりんご4個とみかん5個を取り出すことをくり返した後に残ったりんごは、 $11 + 4 \times 2 = 19$ (個)だから、取り出した回数は、 $19 \div (5 - 4) = 19$ (回) よってりんごは、 $5 \times 19 = 95$ (個) みかんは、 $5 \times (19 + 2) = 105$ (個)

### 4 場合の数

- (1) 百の位から順に並べると、先頭の百の位は0以外の9通り、十の位は百の位で使った数以外の9通り、一の位は百の位と十の位で使った数以外の8通りだから、 $9 \times 9 \times 8 = 648$ (通り)
- (2) 十の位を四捨五入すると400になる数は350以上450未満の数 このうち百の位が3の数は、 $5 \times 8 = 40$ (通り) 百の位が4の数は、 $4 \times 8 = 32$ (通り)だから、 $40 + 32 = 72$ (通り)
- (3)  $999 \div 36 = 27$  あまり 27,  $99 \div 36 = 2$  あまり 27 より、3けたの36の倍数は、 $27 - 2 = 25$ (個) このうち3つの位で2つ以上同じ数が使われているのは、144, 252, 288, 828, 900の5個 よって、3つの位の数異なる3けたの36の倍数は、 $25 - 5 = 20$ (通り)作ることができる。

### 5 立体図形

- (1) 問題のアとイの図において、かげをつけた長方形MBCNと台形PBCDの面積は等しくなる。BCは共通なので、 $MB + NC = BP + CD$ となる。

また、BPの長ささとPAの長さの比が1:3より、BPの長ささとCDの長さの比は、1:4となる。

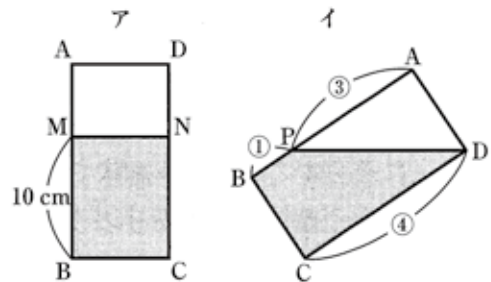
$BP + CD = 10 + 10 = 20$ (cm)より、

$CD = 20 \times \frac{4}{5} = 16$ (cm)だから、辺ABの長さは16cm

- (2) (1)より、辺ABの長さは16cmだから、容器の容積の $10 \div 16 = \frac{5}{8}$ の水が入る。

問題のウの図において、辺BCの長さは、 $5 \div \frac{5}{8} = 8$ (cm)になるので、

辺CGの長さは、 $2000 \div (10 \times 8) = 25$ (cm)



### 6 仕事算の利用

- (1) 1日の目標個数を、12時間と10.5時間でわりきれぬ最小の整数84とすると、機械Aは1時間で7、機械Bは1時間で8の製品を生産する。AとBを同時に使って84の製品を生産するのにかかる時間は、 $84 \div (7 + 8) = 5.6$ (時間)より、5時間36分

- (2) トラックは7台で84、1台で、 $84 \div 7 = 12$ の製品を運ぶ。毎日、機械AとBで、

$(7 + 8) \times 6 = 90$ を生産してトラック7台で84運び出すので、

10日後には、 $(90 - 84) \times 10 = 60$ が工場に残る。よって、 $60 \div 12 = 5$ (台分)

## 一 説明的文章

問 1 内容理解の問題です。最後の一文とは、「とてもおもしろかったです」（まれに「とてもおいしくて、とてもおもしろかったです」）のことです。この一文を書くようになったのは、宿題として提出した日記に、先生から「なにをしたかはよく書けていますが、そのとき感じたことも書けるといいですね」と指摘されたからです。そのため、最後の一文がつけ足されることになったのですが、筆者は、そのことを「小さな抵抗のようにも思えるけれど、ただただ素直だったのだ。そもそも日記とは、その日のおもしろかったことを書くものと思っていたような気もする」と述べ、さらに、「あらためて考えると『おもしろい』こそ、そのころの自分が日々感じたいろいろを表すのに一番適した言葉だったのだと思う」と、当時を思い返しています。以上から、えが正解です。あは、「『おもしろい』の一言で言い表すことは好ましくない」「当時の自分は誤解していたのだろう」が、いは、「当時の自分はしぶしぶ使っていたのだろう」が、うは、「先生からの指摘に対しては素直に聞き入れられなかったのだろう」が、適切ではありません。

問 2 語句の本文中での意味を考える問題です。②「とってつけたよう(な)」は、(手に取ってつけるように)突然で不自然な言動をする様子を表す言葉です。筆者は、「たわいもない日常が綴られたあと、唐突に『とてもおもしろかったです』としめくられる」ことを、自分でも不自然だと思っていたのです。⑤「肩すかし」は、相撲で、相手が前に出てくる瞬間に体を引き、相手の肩に手をかけて引き倒す技ですが、そこから、勢いこんでくる相手を巧みにそらすことという意味でも使われます。母の姿を「無造作な髪に、ぎょろっとした目、鼻の穴や顔のしわもありのまま、むしろ誇張するぐらいに描」き、「本人に見せたら、そんな変な顔じゃないといやがるはず」と思っていたにもかかわらず、母の方は、「むしろ上手に描くなあと感心して、横目で見ていた」ということだったので、うまくかわされて氣勢をそがれてしまったと感じたということです。以上から、②はう、⑤はあが正解になります。

問 3 内容理解の問題です。「鑑賞者の視点からは『美しい』についての議論に集中しがちだが、表現者の視点からはむしろ『おもしろい』が重要なのではないかと」と続き、そのあとに、「根拠は、やはりチンパンジーだ」とあります。チンパンジーは「筆やペンを動かして描く行為がなんだか『おもしろい』らしい」とあり、その「おもしろい」こそ、表現者にとっては「美しい」より重要であり、さらには、「アートの起源について研究するうえでも～だいじなキーワード」になるのではないかというのが、筆者の考えです。以上から、いが正解になります。あは、「チンパンジーが描いたものに『おもしろさ』を見出す」が、適切ではありません。チンパンジーたちの興味は「描く過程にあって、描かれた結果としての絵にはあまり興味を示さない」と述べています。また、チンパンジーの描いた絵に、鑑賞者が「おもしろさ」を見出すとも述べられていません。うは、「作品の『美しさ』とは鑑賞する人間に

よって変化し、絶対的な価値とはいえない」が適切ではありません。本文には「『おもしろい』は絶対的な評価ではなく、あくまで個人の感想だ」とはありますが、「美しさ」への言及はありません。えは、「美しさ」への言及であって「おもしろい」への言及ではないので、適切ではありません。

問4 空欄にあてはまる語句を選ぶ問題です。空欄の前後の内容に着目して、正しいものを選びましょう。□A、□Cのあとは、ともに前に述べた内容を説明したものです。「ただし」は、「その催しには誰でも参加できます。ただし、前に参加したことのある人は除きます。」というように、条件や例外などを補う場合に使います。あ「つまり」は、前の内容をあとで言い換えたり要約したりする場合、い「しかも」は、前の内容にあとの内容を付け加える場合、え「むしろ」は、前の内容より、どちらかと言えば、あとの内容の方が適切だと言う場合に使います。

問5 内容を理解し、その内容をまとめた文の空欄を補充する問題です。□Xは、「チンパンジーが描くときのように、」という空欄の前、「過程をおもしろがっている」という空欄のあとの言葉に着目しましょう。本文に「チンパンジーと同じように、探索する過程をおもしろがって描くのだ」とあるので、チンパンジーの描く様子を見ていくと、「手を動かしながら、出力(行為)と入力(感覚)の関係を探索的に理解していく。その過程をおもしろがっているように見える」とあるので、この部分から、指定された字数に合う言葉をぬき出していきます。□Y、□Zは、「表象を描くようになる」、つまり、「三歳ごろ」になってからのモチベーション(動機づけ)が述べられている段落に着目します。「自分の描いた線にさまざまな物の形を発見することがおもしろい。頭のなかにあるイメージを紙の上に生み出すことがおもしろい」とあるので、この部分から、それぞれの空欄の前の言葉につながる言葉をぬき出していきます。

問6 内容理解の問題です。

- (1) 「これこそ」の「これ」とは、直前の文の中の「絵をはめる言葉」を指しますが、より具体的に書いていきます。私たちは、絵を描くようになった子どもに、「『上手』という言葉」をなにげなくつかってしまいがちですが、この言葉こそ、「絵が苦手という人」を生み出す最大の要因なのではないかと、筆者は考えています。
- (2) 私たちが、絵が上手と言う場合、それは、「見た物の形を写し取った写実的な絵」のことを言うことが多く、子どもの絵でも「物の形をとらえた絵」や「子どもらしいのびのびとした絵」を言いますが、その結果、「上手に描けないから絵が苦手、という子」や「上手な絵を描くには、特別な才能や絵心なるものが必要で、自分にはそれがないから描けないと思込込んでいる人」が出てくるのではないかと、筆者は心配しています。これをふまえると、えが適切です。

問7 内容を理解し、空欄を補充する問題です。筆者は、「写実的に描くのがむずかしいのはしか



たがない」と述べ、さらに、小学校の高学年のころの、写生で木を描くのに悩んだ記憶を述べ、その時は、「結局、左右に適当な枝分かれをつくってごまかしてしまった」と、筆者自身の経験を紹介しています。「写実的に描くのがむずかしい」のは、「人間ならではの認知的な特性が、そしてじつは表象を描くために必要な認知的な特性が、写実的に描くときには邪魔になる」からだと考えていますが、そのような「認知的な特性」がまだ備わっていない小さな子どもが描くのは、「丸だけで顔を描くような記号的な絵」であるとしています。つまり、小学校の高学年のころに木の写生で悩んだ筆者は、写実的な絵を描くことをあきらめ、「左右に適当な枝分かれ」のある記号的な絵に逃げることでごまかしてしまったのだと、振り返っています。

問8 内容理解の問題です。——⑥を含む段落の、前後の段落の内容から考えていきます。直前の段落では、「おもしろい」という言葉の語源をもとに、「おもしろい」とは、「それまでの枠組みがこわされて光がさしこみ、見えていなかったものが見えるようになる。『おもしろい』は、見る人のころのなかでおこる作用であり『!』なのだ」と、また、直後の段落では、「人によって、そしてテーマや色合い、構図などの視点によって、多様な『おもしろい』がありうる。そのぶん見る方も主体的に向きあう努力が必要だ。いいかげんな言葉のようで『上手』よりずっと誠実で、アートの適した評価ではないか」と述べています。以上をふまえると、えが適切です。あは、「絵にごまかしがなく」や「見る人に生きる勇気や感動を与えるように思われる」が、いは、後半の「見る人が何かしらの感動を覚える」が、それぞれ適切ではありません。本文には「勇気」「感動」という言葉はありません。うは、「子どもは誰でもいたずらごろころのスイッチを持っており、そのスイッチを入れてやること」が「大人の責務だから」とは本文に書かれておらず、適切ではありません。「いたずらごろころのスイッチ」は、筆者自身のことに関して使われている言葉です。

問9 内容を理解し、空欄を補充する問題です。筆者は、「『おもしろい』は、いいかげんなようで、じつは万能で、深い言葉だ」などのように、「おもしろい」という言葉を高く評価していますが、「『上手』に、というか写実的に描こうとすること」を否定しているわけではありません。芸大の美術解剖学研究室にいたころの、人物デッサンやスケッチをもとに、「写実的に描くことは、見る力を磨くことなのだ」と述べています。人物デッサンやスケッチをしたあとは、「不思議と目がよくなったような気がした」「はじめて構造が見えてきたりする」と述べたあと、「デッサンやスケッチは、概念の枠組みをいったんはずして、世界をありのまま知覚的にとらえる訓練になる」と、その効果をはっきりと述べています。「見る力」とは、この部分の「世界をありのまま知覚的にとらえる」力のことです。

問10 本文の内容を理解して、それぞれの文の正誤を考える問題です。①～④の文が、それぞれ本文中のどの部分に対応しているかを探し、そこから、正誤を考えるようにするとよいでしょう。①の前半は、1ページ上段の「研究でも、～」で始まる段落に書かれている内容です。本文では「新しい着眼点、新しい手法、意外な結果、新たな説を導く考察など、それまでの

枠組みを大きく変えるような研究」とあり、内容は同じです。また、「おもしろい」「おもしろさ」は絵でも感じられることは、本文の「子どもの絵を評価する言葉も『上手』より『おもしろい』がいいと思っている」などからも合っています。②は、1ページ下段の「チンパンジーたちの興味は、描く過程にあつて、描かれた結果としての絵にはあまり興味を示さない」に合いません。チンパンジーがおもしろがっているように見えるのは、「手を動かしながら、出力(行為)と入力(感覚)の関係を探索的に理解していく」過程です。③は、2ページ上段の「人間ならではの認知的な特性が、そしてじつは表象を描くために必要な認知的な特性が、写實的に描くときには邪魔になるのだと考えている」や、2ページ下段の「言葉をもった人間は、目に入る視覚情報を『知覚』すると、つねに『なにか』として言葉に置き換えて、概念的に『認知』してしまう癖がある。そこで、見えているつもりなのに描けないというジレンマが生まれる」と合いません。④は、3ページ上段から本文の最後まで、芸大時代の筆者の経験を述べた内容に合っています。筆者は、写實的な表現力を究めることの重要性も述べています。

## 二 文学的文章

- 問1 内容理解の問題です。7ページ下段の「『家なき子』は、かわいそうな～」で始まる段落とそれに続く段落の二つの段落で、『家なき子』とはどのような物語かが説明されています。「かわいそうな捨て子のレミが、旅芸人のピタリスじいさんに連れられて、芝居をしながら村から町へと旅をする物語だった」「最後にレミは、赤ん坊のころ、財産を横取りしようとした親戚の悪い人にさらわれて捨てられていたことがわかり、本当のお母さんとも再会することができたのだった」とあります。この部分から、指定された字数に合う言葉をぬき出していきます。
- 問2 語句の知識の問題です。「ひときわ」とは、「いっそう、ひとしお」という意味です。各文にあてはめていくと、「今夜は、寒さがいっそう(ひとしお)身にしみる。」としても違和感のないが、適切だということがわかります。
- 問3 内容を理解し、空欄を補充する問題です。Aを含む言葉は、「僕が初めてこの本を読んだときも、そんな気持ちだったよ。レミが自分みたいな気がしたっけ。父さんに話したら、それが本を読むときの大事なことだって教えてくれたんだよ」という、孝の言葉を聞いて、孝の父、一馬が言ったものです。Aの直後の「自分の心が映し出される」が手がかりになります。一馬は、「自分の心って自分ではなかなかよくわからない」が、本を読むと、「鏡の前に立ったときのように」自分の心が映し出される、と言っています。以上から、うが正解になります。
- 問4 登場人物の関係を読み取る問題です。孝と則秋が交代で『家なき子』を読み、それを雪子と孝の妹の美知子が聞いている場面ですが、その場所は、「父の一馬は、布団の中で、四人の会話を黙って聞いていた」とあることから、孝の家だとわかります。また、梅三じいさんの



「これはこれは、ご主人。きょうは調子ん良かごたってますね」の「ご主人」とは、「父の一馬」のことであり、さらに、一馬は、病氣らしく、家の中で寝ていることもわかります。

- 問5 内容理解と表現力をみる問題です。梅三じいさんが現れ、孝、則秋、雪子、美知子の四人は、梅三じいさんとともに、孝の家から則秋の家へ移動しています。——④「先ほどからの感動さめやらない雪子」とありますが、「先ほどからの感動」とは、孝の家で、孝と則秋が交代で読んだ『家なき子』を聞いたときの雪子の感動のことです。8ページ上段に「孝と則秋が交代で読むのを黙って聞いていた雪子は、胸が熱くなってきた。本を読んでもらうのも初めてだったが、物語を聞いて胸が熱くなったのも初めてのことだった。雪子は、レミと自分のことが重なってきて、何か心に込み上げてくるものがあった。／『わたし、どうしたのかしら。何だか悲しいような、うれしいような……、自分でもよくわからない』」とあるので、この部分の言葉を用いて五十字以上六十字以内にまとめます。「孝と則秋の二人が読んでくれる、」に続くように『家なき子』から始めなければならず、また、「レミと自分が重なる」「胸が熱くなる」「心に込み上げてくるもの」という言葉が欠かせません。さらに、終わりは「こと。」に続くようにまとめる必要もあります。次のような解答でも、よいでしょう。

例：※孝と則秋の二人が読んでくれる、『家なき子』を聞き、レミと自分が重なって胸が熱くなり、何だか悲しいようなうれしいような、自分でもわからない気分になったこと。

- 問6 登場人物の心情理解の問題です。『家なき子』を聞いて感動した雪子は、「わたし、やっぱり学校に行きたいなあ……」「本もたくさん読みたいし、いっぱい友達もつくって遊んだり、一緒に勉強したい……。でも、だめかもしれない……」などと言っています。その都度、梅三じいさんが、雪子の相手をしていますが、雪子は、最後に「わたし、サーカスの旅先で生まれたんだって……。いつも、あっちこっちを回っているから、わたしには、故郷がないの……。孝にいちちゃんたちには、桜の花のトンネルや、魚釣りや、スッポン捕りのできる故郷があって、うらやましい……」と、孝の名前を出して言っています。この雪子の言葉は、自分の置かれた立場をさびしく思う気持ちを反映したものです。これに対して、孝は、「そんなことないよ。雪子ちゃんには、優しい父さんも、母さんもいるし、象の花子もいるじゃないの」と、雪子を元気づけるように言ったのです。以上から、えが正解になります。あは、「変化のない日常生活にあきて、かえって旅を続ける雪子をうらやましいと感じている」が、いは、「自分の口うるさい両親」「自分も雪子の両親の子だったらよかったのにと残念がっている」が適切ではありません。また、うは、「自然あふれる故郷を持つ自分を幸福に思っている」というような内容は本文中から読み取れないので、適切ではありません。

- 問7 人物像の理解の問題です。Bの前に「梅三じいさんは、相変わらず」とあるので、これより前の部分から、梅三じいさんの様子を表す言葉を探していきます。そうすると、雪子の「わたし、やっぱり学校に行きたいなあ……」「本もたくさん読みたいし、いっぱい友達もつくって遊んだり、一緒に勉強したい……。でも、だめかもしれない……」という言葉に対して、「そうか、学校に行きたいか。えらいなあ……。雪子ちゃんは、もう学校に行く年なん





が、登場人物は、孝、則秋、雪子、美知子、それに、孝の父の一馬の五人で、物語は孝の家で展開しています。途中から、則秋の祖父の梅三じいさんが登場し、孝、則秋、雪子、美知子の四人は、梅三じいさんとともに則秋の家に移動しています。また、内容については、前半は『家なき子』を中心に、後半は梅三じいさんと雪子の会話を中心に展開しています。したがって、梅三じいさんの登場が、前半から後半へと移るきっかけになっていることがわかります。梅三じいさんがどこで現れるかを見ていくと、8ページ上段の「そんな話をしているところへ、～梅三じいさんが帰ってきたのだ」とあり、ここから、後半が始まることがわかります。

問12 人物像の理解の問題です。後半は、梅三じいさんと雪子の会話を中心にして、物語は展開していますが、則秋の祖父の梅三じいさんとは、どのような人物かを読み取っていきましょう。

X 梅三じいさんは「発明好き」で「物知り」ですが、それ以外に、どのようなことが好きなのかを見ていきましょう。前後の、「梅三じいさんの話した内容からわかる」「自分の身のまわりの様々なものごとにも興味をもっていた」を手がかりにして本文を読んでいくと、9ページ下段の「独り言のように話した」内容の中に、「自然を観察するのが好きになった」とあります。

Y 梅三じいさんは、学校に行けないかもしれないと心配する雪子に、「いろんな人からでん、いろんなことば勉強できると思う」と言い、さらに、河原の小石、空の星、月、太陽なども何かを語りかけてくるので、心の中の耳を澄ませば聞こえるかもしれないと話しています。また、小学校も卒業しないうちに働きに出され、苦勞しながら学んできた自分の人生も話し、その気さえあればどこでも勉強できると、雪子を元気づけています。以上から、あが適切です。

### ☐ 漢字・語句

問1 漢字の読み書きの問題では、丁寧<sup>ていねい</sup>に書く意識を持ちましょう。雑で読めない文字や略字は、正答になりません。簡単な文字、たとえば、「間」なども、略さずにきちんと書きましょう。

①は「吸い取ること」という意味の「吸収」です。「吸」の訓読みは「す(う)」、「収」の訓読みは「おさ(める・まる)」です。また、「吸」は、筆順に注意が必要な漢字です。

②は「手に負えず、困り切ること」という意味の「降参」です。「降参」には、「戦いに負けて敵に従うこと」という意味もあります。「降」の訓読みは「お(りる・ろす)、ふ(る)」、「参」の訓読みは「まい(る)」です。

③の「迷」を使った熟語には、「迷子」「迷路」「迷信」などがあります。漢字を訓で書くときにその漢字が思い浮かばなければ、その漢字を使った熟語はないかと考えましょう。

④は「税金の額が減ること、または、減らすこと」という意味の「減税」で、対義語は「増税」です。「減」の訓読みは「へ(る・らす)」で、「税」には訓読みがありません。

⑤は「さしさわり、差しつかえ」という意味の「支障」です。「支」の訓読みは「さ(さ(える))」です。

⑥の「縮」は、音では「シュク」と読み、「縮」を使った熟語には「縮図」「縮小」「短縮」などがあります。訓では「ちぢ」と読み、「ちじ」ではありません。「ぢ」と「じ」、「づ」と「ず」については、原則として、「地面」「大豆」のように「じ」「ず」と書きます。ただし、例外があり、同音が続いて濁るときと、漢字本来の意味を残したまま、二語が結びつくことによって濁るときには「ぢ」「づ」を使います。同音が続いて濁るときとは、たとえば、「縮む」「続く」などで、二語が結びつくことによって濁るときとは、たとえば、「鼻血」「三日月」「手綱」などです。これらに対して、「稲妻」は「稲」と「妻」の二語がそれぞれの意味を残したまま結びついたものではないので、「いなづま」ではなく「いなづま」です。これを機会に、かなづかいについてもしっかりと覚えましょう。

- 問2 類義語の問題です。類義語や対義語には、熟語全体で類義語・対義語になるものもあれば、熟語の一部が変わることで類義語・対義語になるものもあります。たとえば、類義語では「長所＝美点」「短所＝欠点」は、熟語全体で類義語になりますが、「野望＝野心」「応答＝返答」は、一部が変わることで類義語になっています。今回の出題内容は、熟語の一部が変わる類義語です。①「使用＝利用」という類義語です。②「案外＝意外」という類義語です。③「品行＝素行」という類義語です。④「手段＝手法」という類義語です。

#### 四 語句・言葉のきまり

問1 ことわざの知識の問題です。ことわざの中にはおもしろい言い回しをするものがたくさんあります。日常生活の中でおもしろい言い回しのことわざを耳にしたときは、その意味を調べたり、また、ことわざの本を読んだりして、積極的に覚えましょう。①は、「亀の甲より年の功」です。「甲」と「功」が同じ音であることが、このことわざを覚えやすくしています。意味は「年長者の経験は、尊重しなければならない」という意味で、「かめ」とうが正解になります。②は、「捕らぬ狸の皮算用」です。「まだ狸を捕まえないうちからその皮を売ってもうける計算をする」ことから、「不確実なことがらに期待して、それをもとに計画を立てる」という意味になります。したがって、正解は「たぬき」とあになります。なお、「つまらない物でも、ないよりはましだ。」は、ことわざ「枯れ木も山のにぎわい」の、また、え「自分から原因を作って、悪い結果を招くこと。」は、ことわざ「身から出たさび」の意味になります。

問2 四字熟語の知識の問題です。①の「七転八倒」は、「我慢できない痛みや苦しみて、のたうちまわること」という意味の四字熟語です。②の「一挙兩得」は、「一つのことをして、同時に二つの利益を得ること」という意味の四字熟語です。③は「三寒四温」です。「三日間ほど寒い日が続く、その後四日間ほど暖かい日が続くことを繰り返す、冬に見られる気候」を言い表した四字熟語です。④の「五里霧中」は、「あれこれ迷って、方針や見込みが立たないこと」という意味の四字熟語です。①から④までの空所にあてはまる数字を合計すると、えの18になります。

問3 文節のかかり受けの問題です。文節がどこにかかるかは、かかる文節と受ける文節を直接つなげて、うまく意味が通るかどうかで確認してみるとよいでしょう。①の「見える」は、②「洋館(は)」にかかります。「白くて 大きな 向こうに 見える 洋館は」としても、意味は変わりません。また、「白くて 大きな」も「洋館(は)」にかかり、どのような「洋館」なのかを詳しく説明しています。②の「おそらく」は、受ける文節に「～だろう」という特別な言い方を要求するので、正解は③「咲くだろう」になります。このように、受ける部分に特別な言い方を要求する言葉には、他に、「まるで(～ようだ)」「たとえ(～ても)」「けっして(～ない)」「どうして(～か)」「ぜひ(～たい)」などがあります。

問4 ①は、「着れる」が誤りです。「～できる」という意味で、「書ける」「走れる」「歩ける」は間違っていますが、「着る」「借りる」「得る」「食べる」「来る」に「～できる」という意味を加えるときは、「着られる」「借りられる」「得られる」「食べられる」「来られる」が、日本語としては正しい言い方になります。②は、主語と述語が対応していないので、間違いです。この文の述語は「戦います」ですが、主語は何でしょう。「(あの選手の)持ち味は一戦います」では、おかしい日本語になります。「あの選手の持ち味は、試合終了まであきらめずに戦うことです。」、あるいは、「あの選手は、試合終了まであきらめずに戦います。」であれば、正しい言い方になります。③ことわざの「住めば都」は、「どんなところでも長く住んでいれば、愛着がわいてくるものだ」という意味で、住んでいるところが田舎であっても、問題はありません。意味を間違えることわざに、「情けは人のためならず」があります。このことわざは、「他人に情けをかけておくと、いつかめぐりめぐって自分に返ってくる」という意味で、「情けをかけるのは他人のためにならない」という意味ではありません。④日本語としては、問題ありません。ただし、「ほど」は「ぐらい、ばかり」という意味なので、「約三日ほど」「およそ三十人ほど」と使うと、間違いになります。⑤「小春(日和)」とは、初冬の、おだやかで、ぼかぼかと春を思わせるような気候を言い表した言葉で、俳句の季語としても使われます。したがって、「暦の上では冬とはいえ、小春日和の日が続いている。」という文は、間違っていない。以上から、①・②はF、③・④・⑤はTが正解です。



2022年度入試 桃山学院中学校 第1回プレテスト(11月13日) 成績参考資料

【プレテスト全体結果】

平均得点

教科	得点
国語	90.5
算数	51.5
国算計	142.0

受験者数	287
欠席者数	48

【6年選抜コース】

合格可能性	得点ライン	人数	平均点			国算計偏差値 平均
			国語	算数	国算計	
A(合格安全圏)	191	43	115.2	98.6	213.8	66.1
B(合格可能圏)	160	51	108.2	64.9	173.1	57.0
C(有望圏)	133	75	95.9	49.3	145.2	50.7

【6年進学コース】

合格可能性	得点ライン	人数	平均点			国算計偏差値 平均
			国語	算数	総合	
A(合格安全圏)	160	94	111.4	80.3	191.7	61.1
B(合格可能圏)	133	75	95.9	49.3	145.2	50.7
C(有望圏)	100	68	81.7	36.1	117.8	44.6

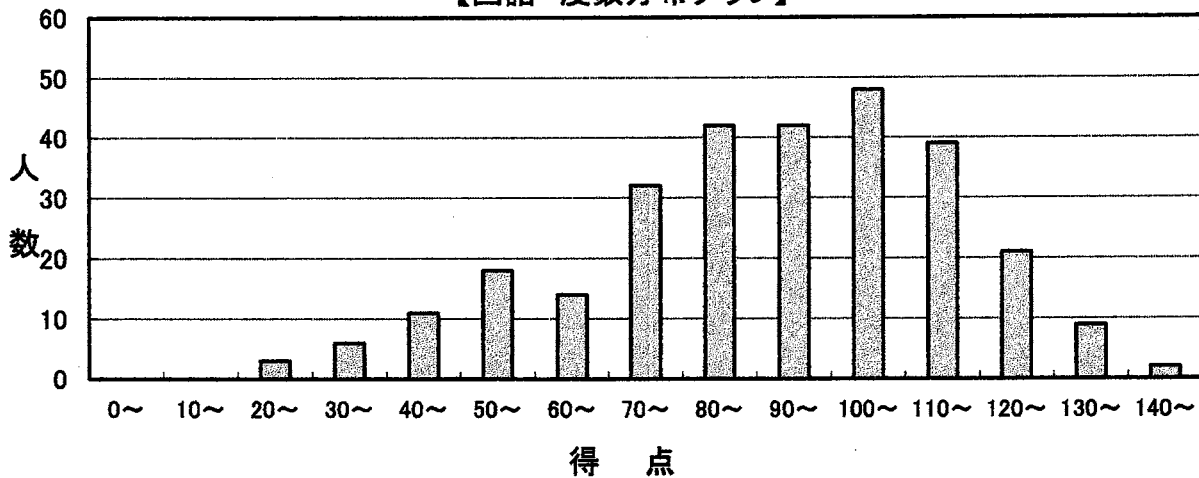
※表中の数値は、A・B・Cそれぞれの幅に入っている受験生の人数・平均点等を示しています。

## 2022年度入試 桃山学院中学校 第1回 プレテスト(11月13日) 合格判定基準詳細

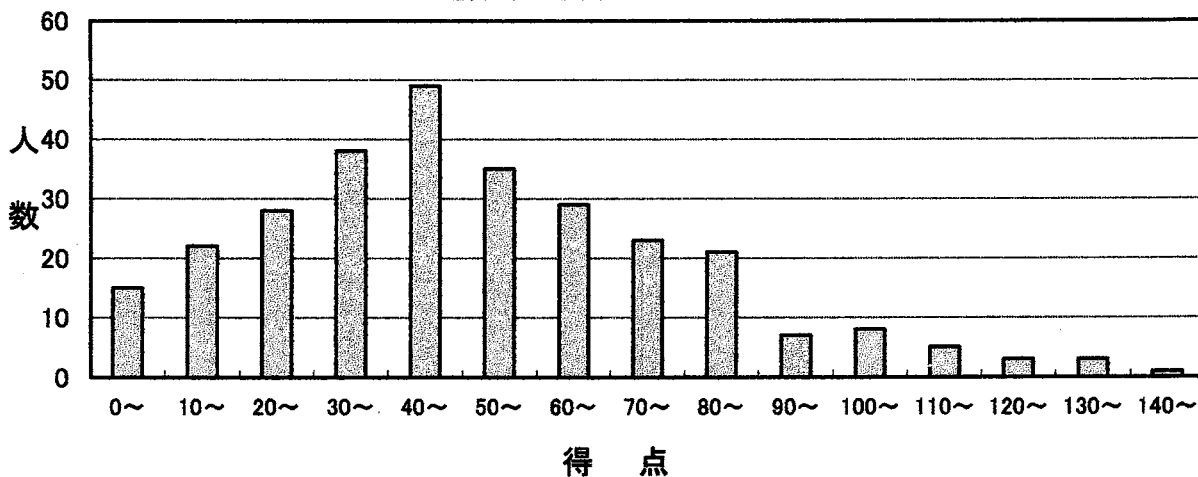
判定	内 容	2科目プレテストの基準点	
		選抜コース	進学コース
<b>A判定</b> (合格安全圏)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     合格率 90~98%                 </div>	現在の国語・算数の実力から見れば、ほぼ安全圏です。 ただし、A方式入試には理科・社会もあります。理科・社会の得点も合格には大きな影響を及ぼします。国語・算数に関しては、今の調子を維持し、体調管理にも気を配り、万全の態勢で入試に臨んでください。油断は禁物です。A~C方式までチャレンジすれば合格は確実なものとなります。	191/300	160/300
<b>B判定</b> (合格可能圏)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     合格率 80%~95%                 </div>	現在の国語・算数の実力から見れば、「合格」の可能性は大いにあります。この実力を入試本番までにさらに高めるように、より一層の努力を期待しています。 ただし、A方式には理科と社会の試験があります。理科もしくは社会が得意か不得意かにより合否は大きく影響されます。理科もしくは社会が得意な生徒は、限りなく合格に近づけます。 入学試験には、「自信」をもって臨んでください。また、A~C方式まで粘り強くチャレンジすれば「合格」の可能性は更に高まります。	160/300	133/300
<b>C判定</b> (有望圏)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     合格率 50%~80%                 </div>	現在の国語・算数の実力から見れば、合格圏内に入るには今後の努力が必要です。国語・算数に関しては、これまでの学習を振り返って、自分の弱点を見つけ、その補強に努めて下さい。全体の得点率の高い基本問題は確実に解けるように頑張りましょう。これからの頑張り次第では、十分「合格」をねらえます。 A方式には理科と社会の試験があります。理科もしくは社会が得意か不得意かにより合否は大きく影響されます。理科もしくは社会が得意な生徒は、限りなく合格に近づけます。また、A~C方式まで粘り強くチャレンジすれば「合格」の可能性は更に高まります。	133/300	100/300
<b>D判定</b> (努力圏)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     合格率 10~40%                 </div>	現在の国語・算数の実力から見れば、「合格」するためには、かなりの努力が必要です。国語・算数に関しては、これまでの学習を振り返って、自分の弱点を見つけ、その補強に努めて下さい。全体の得点率の高い基本問題は確実に解けるように頑張りましょう。 A方式には理科と社会の試験があります。理科もしくは社会が非常に得意な生徒は、合格する可能性もあります。また、A~C方式まで粘り強くチャレンジすれば「合格」の可能性はかなり高まります。	/	/

2022年度入試 桃山学院中学校 第1回プレテスト(11月13日実施) 教科別総括

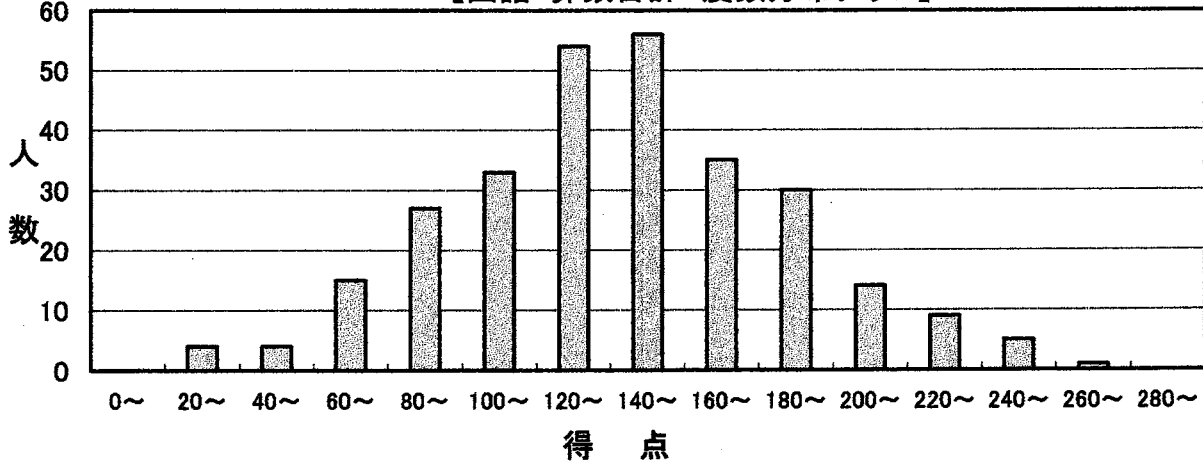
【国語 度数分布グラフ】



【算数 度数分布グラフ】



【国語・算数合計 度数分布グラフ】



**国語**

◆大問一

「おもしろい」「上手」という言葉を通じて、芸術作品を描く際に世の中をどのようにとらえるかを説明した論文。難解な言葉が使われている箇所もあり、読みやすいところ、対比的に書かれているところをいかに早く読み解くかが必要であった。

**正答率が高かった問題**

問3と問10の②。どちらも前半部分の読解力を問うものであるが、良好であった。

**正答率が低かった問題**

問6の(1)と(2)。「これ」が直接指す言葉は直前の「絵をほめる言葉」だが、これでは字数制限に合わず、見つけることに苦労したと思われる。選択肢問題も、紛らわしい言い回しの判別が難しかったかもしれない。

◆大問二

サーカス一座の団員の雪子が、『家なき子』の読み聞かせてもらう中で、自分と重なる部分があると感動する。旅の一座であるため、故郷もなければ学校へも満足に行けない雪子であるが、学ぶ意欲があれば学ぶことは可能だということを教えられる。登場人物がやや多いため、内容整理力が問われたかもしれない。

**正答率が高かった問題**

問1。基本的な本文読解を問う問題で良好であった。

**正答率が低かった問題**

問4。主語を読み取る問題。登場人物が多く、読み取りにくかったかもしれない。問5。一定数白紙の答案が目立った。

◆大問三

**正答率が高かった問題**

全体的に良好であったようだ。基本的事項を押さえてくれていると感じた。

**正答率が低かった問題**

問1の②。「降参」がやや書けていなかったようだ。

◆大問四

**正答率が高かった問題**

問4の②の文のねじれについて、違和感を持ってくれたようだ。自身で文を書く際も気をつけてほしい。

**正答率が低かった問題**

問4の①の「ら抜き言葉」が苦手だったようだ。日常会話では問題ないが、正しい言葉遣いとして身につけてほしい。

**算数**

◆大問1 (計算問題)

(1)、(2)は全体的に良くできていました。しかし(3)、(4)の出来があまり良くなかったです。分数や小数を含む計算は毎年出題しています。また、単位の換算は暗記するしかありません。必ず復習しておいてください。

◆大問2 (小問集合)

基礎的な内容を幅広く出題しています。配点が高いので、充分に対策をしてください。(3)、(4)、(6)の正答率が低かったです。いずれの問題も、考え方を丁寧に確認し、間違いを無くしましょう。

◆大問3 (個数の問題)

(1)、(2)とも1割ほどの正解率で、差がつく問題でした。具体的なイメージをして、取り組むと考えやすいです。間違えた人は、同じような問題に何度もチャレンジをしてください。

◆大問4 (整数を作る問題)

(1)はできていましたが、(2)(3)の正答率が低かったです。規則を考えて、見落としがないように解きましょう。

◆大問5 (直方体の容積の問題)・大問6 (仕事の問題)

どちらもあまり出来ていませんでした。時間が足りなかったのか、正解率が悪かったです。時間配分に気を付けて、解ける問題を確実に得点できるようにしましょう。